

## 第3回 新型コロナウイルス対策支援本部会議記録

日 時：令和2年6月10日(水)

午後1時29分～午後3時01分

場 所：第 4 委 員 会 室

【本 部 長】川神議長

【副本部長】佐々木副議長

【本 部 員】三浦議員、澁谷議員、岡本議員、柳楽議員、芦谷議員

【事 務 局】古森局長、下間次長

---

### 【議 題】

1. 市民からの意見等についての支援対応にかかる今後の対応策及び意見について  
(会派提出分)

2. 今後の方向性について

3. その他

【議事の経過】

[ 13 時 29 分 開議 ]

川神議長

会議を開催する。今日の議題で特に大事なものは、今後浜田市議会はどのような行動をとるか、執行部に何を強く働き掛けるか、方向性について議論しておきたい。政府からは具体的なことは出されていないが、東京等、第2波、第3波の兆候もある。皆からご意見をいただきながら、市民からの意見についても、会派でどのような意見を持っているか、事務局からの報告も交えつつ議論していきたい。短時間で濃い議論をしたい。

1. 市民からの意見等についての支援対応にかかる今後の対応策及び意見について

2. 今後の方向性について

川神議長  
古森局長

事務局から説明をお願いします。

( 以下、資料をもとに説明 )

29日までの締切として会派から意見を出していただいた。個別意見があったのは山水海だけだった。私が知っている限りのことはお答えしたい。

まず全体に関して、未対応の事業についてどのように対応するのか。まず支援策として皆にお知らせした部分については、市が示した経済対策等の対応の中で該当すると思われるものを事務局判断でお示した。事務局の方で勝手にやったので記入漏れ等があったら申し訳ない。未対応部分についてはこの支援本部会議の意見と市民の声を踏まえて、市の本部会議において議長団から意見を伝える、もしくは次の申入れという手法も考えるということで対応するものと考えている。支援本部の動きが議会の動きなので活動的に動くかどうかは、私から言いにくいですが、議員が吸い上げた声を執行部に伝えていく活動が、それにあたるのではと思っています。

議長からは、本部会議の際は一つ一つの個別の項目については回答不要、諸々の事業や予算の関係を取り組んでほしいと言われているので、直接1個1個の回答は皆にお知らせしていない。

36番、固定資産と同等かどうかの判断については執行部にどう考えているか確認はしていない。家賃が家主に入っていない件だが、貸主への助成制度は今のところない。商工労働課長からは、貸主が借主に「こういう補助があるが受けてみてはどうか」と勧めてもらっていると聞いている。

指定管理者への補償については、この期間だけを考えるのではなく年間の指定管理経費の中で最終的に判断し、補填が必要な場合は検討する状況である。

51、58番について。5月22日の日に対応していて、ステッカーが意味をなさないとあるが、ステッカー対応をやっているということ以外言えない。

67番について、6千円分を5千円で販売する商品券はホームページ等いろいろなところでPR活動はしているが、足りてないという声があれば改めて伝えることになるかと思う。

マスクの支給について。健康福祉部で社会福祉協議会にマスク回収の対応の投げかけをしている。社会福祉協議会から良い返事がいただけなければ市が直接対応するという方向性を持っておられる。もともとマスク配布は、第2波を予想してある程度自分で確保してくださいとお願いしていることもあり、いま余っているから譲るといのはどうなのかという声がある。

川神議長

支援本部の動き、もしくは対策本部で意見されていることについては、大まかなことに向けて話が進んでいる。私がとにかくお願いしているのは、執行部とある程度議会は足並みをそろえなければならない。例えば自治会活動の開始とか、特に市議会議員は市民からシビアに意見を求められるので、ガイドライン等を前面に出して市と共有していかなければならないし、具体的にさせていただきたいということである。

予算に関しても、今は予算が厳しい状況なので前倒しで投下してほしい。これは申入れの中にも入れておりますが、とにかく現実を見てやってほしいと言っている。その後の市長との個別の話でも、特に議会としてこういう方向性を出しているの、国県の支援策に市の支援策も加え、市として早急にまとめてほしいと。以前から言っておりますが、スピード感を持ってやってもらいたいと何度も伝えている。

我々是对策本部を応援する立ち位置なので、そこがしっかりしていないと我々も動けない。市長には懸念の声を伝えている。可能な限り声を出すし、今からも意見を吸い上げて、実行して最終的に形になるという思いでやっている。これに対して三浦議員はいかがでしょう。

三浦議員

29日に提出を求められたので会派で協議して出したのですが、まず、この対策支援本部の位置づけが、いったいどういう機能を果たすのかという意見が議員からも出ていた。今、執行部が迅速にコロナ対応を取れるようにということで、意見の吸い上げ、情報提供を一本化してやろうというのが基本スタンスだったと思うが、今は伝えるだけで、伝えたことがどうなっているのかが、今回は色分けを事務局の方でしていただいたということですが、伝えたことがどうなっているのかが今まで分かりにくかったので、そこを明らかにしながら、今後どういうふうに、執行部と議会とが、あるいはこの対策支援本部とがどういう関係性で今後進めていくのかを整理する必要があるのではないかと、ということで、この全体のところは、会派の総意として出した。

下の個別の意見は、いろいろな支援が打ち出される中で、漏れ、届いてない部分が出ている。今回、仲買さんからの要望書などがいくつか出ている。市が管理している施設等々も同じく影響を受けているが対策が見えない。やはりスピード感が求められる中、意見を列挙してから1か月近く経っている。いろいろなことが解除される中でなぜこのタイミングなのか、この意見は本当に見られたのかと疑問に感じる。そうしたところを今一度整理していただきたいという意味で下のところの意見は書かせていただいた。

川神議長

今後の具体的な行動については皆の意見を聞きたい。本来この支援本部を立ち上げた意図だが、執行部側の対策本部会議に、最初は古森局長だけが呼ばれていたが、なぜ正副議長は呼ばれないのか、それはおかし

いと。常に執行部と議会とは両輪である。やはり支援本部を作り、議会からの意見を集約し対策本部へ上げる場が必要だとして、支援本部は立ち上がった。支援本部で出た意見がどのように、どの程度、対策本部である執行部側に伝わるのかは、考えなければいけないタイミングかもしれない。皆さん方にも伺いたい。

先ほどの陳情の話だが、通常、議会が陳情や請願など、本当に厳しい状態の時に受ける。今回は仲買、水産加工の関係、ひとり親家庭のすべてに対して定額給付をしてほしい、大学生に家賃補助してほしいという声もあった。つまり各々の個人が大変厳しい状況、コロナの影響が多分に響いている。本来はこのような陳情、請願は委員会を通してあげるのだが、こちら一言添えて執行部に実現、採択された場合は、強く後押ししていかねばならない。一段と力を入れて執行部にお願いしていこうと思っている。個別案件についてもぜひ、皆からさらにご意見いただきたい。

他の会派からご意見はあるか。

岡本議員

我々の支援本部の立ち上げ意図は2点あると思っている。1つは執行部が、議会が市民の声を個別に聞くことで対策本部が混乱を招かないようにしよう。したがって、議会で意見をまとめてから対策本部に伝えようということだった。

もう1つ、対策本部が実質的に行動に示したものを我々に返してもらい、返してもらったものを市民にフィードバックすることだと、それが対策支援本部のあり方だと認識していた。その流れの中で陳情、請願の話が出た。これもほとんど、議員が絡んでいる。だから我々議員の活動としては間違っていない。ただ正副議長が出ておられて、細かい対策は求めないということ、これもそうだろうと思う。必要であれば我々も聞くべきだと思うが、それについてはお任せしたわけで、もし本当にそのことについてどうなのかとなれば、議長に対して、自分はこう言ったが、市民にどうフィードバックすべきかを聞くのがこの場だと思っている。

芦谷議員

議会は議会なりに能動的にどうすれば良いか考えて。執行部の足かせにならないように。議員24名の意見をまとめて、できれば市役所の仕事を応援すれば良い。先々週くらいに、今日中に次の予算要求をまとめなければいけないという声を聞いた。少し、浜田は対応が遅いという気もするし。聞きたいのはそういった執行部の対応のスピード感のなさが気になる。

さらに言えば、次の定例会議でまた質疑するのだろうが、まとめて体系的に整理して、6月議会終了後には議員の総意として要望するとか、執行部に提出したらどうか。こと新型コロナについては抜き出して、この会議で了解が得られれば、第3回目の補正に向けて意見を出したらどうか。

柳楽議員

この支援本部会議の中では、執行部で得られない情報も議員それぞれの間人間関係の中で情報を得て、それをまとめたものを執行部に提案するのが役割だと思っている。これから新たに、これまで以外の問題点も出てくると思う。国でも2次補正がこれから参議院へ行く。国の支援策とも合わせながら見ていく必要もあるのかと思う。

澁谷議員

私は国であるならば立法府の多数側が行政府を構成する。予算編成権

があるが、地方議会には予算の配分権も執行権もない。あくまでも意見を述べる、申入れや提案をするにとどまるので限界がある。申入れしたところで善処しますといった答弁にとどまっている。柳楽議員が言われたように、国県の政策をきちんとつかんでないと、そこから漏れたものが分からない。浜田市の飲食店へのプレミアムについても、さらに県の施策もある。国県の二次補正などの動きをフラットにつかみ、そこから漏れたものを提案するしかないのではないだろうか。善処するというだけでなく、ある程度の金額ベース、はっきりした形で提案すべきである。6月の一般質問でも半数ほどはコロナ対策について触れている。国県の政策を分析し理解して、議員の質問内容と答弁を加味しながら、具体的な申入れをしたらどうかと思っている。

川神議長  
三浦議員

三浦議員、一回り聞いたが、皆の意見を聞いて意見はあるか。

やはり対策支援本部が、議会のコロナの1本化した窓口という位置づけがある。その位置づけの中でどういうことができるか、やっていくのかがまだ曖昧だと思っている。真の役割りが明確になれば良い。今回の一般質問の在り方も、当初は執行部のスムーズな対策を促すためにも負担軽減しようということで、我々会派は時間短縮ということで、質問を控えることを考えていた。その中でコロナに触れる質問が結構出ているが、それは個々の議員の意見である。それでコロナに関しては、そういう声を1本化して伝えることが執行部の負担軽減と迅速な対応に結びつくであろうということは確認していた。一般質問をするのが悪いということではなくて、その辺の整理が曖昧である。だから、これから補正予算等でコロナ支援のことが各所管委員会に送られて議論されるのだろう。それは個別の事業として委員会での審査に、所属委員としては質問するし、意見を述べる機会もあろうが、それならこの支援本部はどういう役割を担うのか。個々の議員はどのような形で執行部にも、あるいは議会として関わっていくのが良いのか、今一度皆で整理するべきではないかと思う。

川神議長

以前の対策本部の時に、執行部と議会にいただいた市民の意見を共通フォルダに入れておくのでぜひ参考にさせていただきたいと話した。しかしながら、教育部長は「共通認識がなされていなかった」と、残念な結果だった。生の声を聞くのは議員だと思う。それを吸い上げ、是非共有しようというなら、執行部が政策立案や対策を打つ際に、市民の現場の声を聞かないとできないと思う。それを吸い上げて提案して、なぜ漏れたのかはここでまとめて議員に返すこともこの役割りだと思う。機能しなかったことに関して、私も反省している。皆に改めてお願いしたい。

具体的には、芦谷議員や澁谷議員からお話があったが、一般質問の在り方についていろいろあった。それと議会全体の意見というのは、包含関係にある。議会からの質問に対する答弁は、国県の今後の政策と、一般質問への答弁とを照らし合わせ、抜けている支援、更に具体的なものをに入れて、支援本部として対策本部もしくは市長にお話していく。中身の濃い、見落とされている隙間への対策について議会からしっかり言えるよう、改めて見直ししたい。

もっとほかの手法について意見があれば聞きたい。

澁谷議員

議員が市民の声を流したのは、あれはあれで良いと思う。しかし執行

部にとってはあのようなものはありがた迷惑である。直接市民から電話などで言われていることもある。ただ議会としては、議員に対して市民の声を提供している、その距離を縮める努力をしているだけで十分である。それに対して執行部が対応するかどうかは関係ない。市民からの苦情を職員も聞いている。議員としてはこういう情報提供をしている、それはそれで価値がある。ただ、執行部にとってはかなりありがた迷惑な話である。

三浦議員

先ほどの窓口を1本化するための支援本部だという話。執行部の業務負担軽減というのもあるが、執行部の業務負担軽減だけでなく、議員個別の意見をそれぞれ伝えても、執行部は施策に反映するのは、執行部も動きづらくフットワークも鈍い。やはり議会の総意として、第1弾の申入れをしているが、議会全体としてこうした声を拾いあげるのはもちろんのこと、こういうことは抜けている、やるべきだ等、これは国県要望との兼ね合いも含めて、市が独自で支援をすべきだということも含めて執行部に対して申入れるのはきちんとした働きかけとしてできる。そういう意味では議会は情報収集するべきだし、一般質問で伝えるのではなく、議会の総意としてこういう議論の場があるのだから、もっと生かせるような議論の進め方をしていただきたい。

芦谷議員

未体験のゾーンに入っている行っているの、執行部にも配慮して仕事を作らないようにしなければいけない。あまり考えすぎて遠慮するのではなく。今の状態を見てみると、支援にスピード感がない。可能な限り市民や現場に向き合えるような市の仕事の在り方を提案しなければならない。前に進めるような提案を議会からしたい。背中を押せるように。

岡本議員

一般質問の意見を集約して、支援本部として提案するのはどうかと議長は言われた。方向性としては私も賛成なので、この支援本部として一般質問のような場を全体で眺めた中で、こういうことをすべきではないかと私も思った。

川神議長

あまりがちがちに考えずとも、個々の一般質問は自分の考えでされれば良い。国県の流れはこの場で再確認し、総合的なものは支援本部の中できちんと整理して、申入れという形もあろうし、そうでなければ対策支援本部の中で議員の総意としてこういったことをきちんとやるべきではないかということをして市長に伝える。ここでベースを作り、6月議会が終わった時点ですらせるように支援本部として動いていきたい。そういう流れに同意いただけるか。

澁谷議員

議長団にお任せしているので、この意見をくみ取って本部に言ってもらおう。口頭であるならば申入れのような文章にしてやる。今の段階で申入れしてもダメだろう。

川神議長

今はダメだろう。だから一つのタイミングとしてやるなら個人の一般質問で出る。それはそれでよい。出てそれなりの答弁をする。それも一つの情報源として、早急に、例えば家賃補助なら、国県が今いろいろやろうとしている。市もやろうとしている。受ける側からすれば、国でやることと市でやること両方もらえるのかとか。借主か貸主かとか。また、今回学生が家賃補助の要望を出したが、学生は補助の対象になりにくい。しかし学生への補助を打ち出した自治体がある。可能な限り、経済対策

等、カテゴリ表を作ってほしいと2週間前くらいから言っている。いま現在で作ってほしいと。それもここでの議論の材料として早急に作ってもらい、ここで議会として考え、発信する組織としてやっていきたい。この支援本部は議会として機能するよう我々も頑張るのでよろしく願います。

岡本議員

執行部に新たな提案、お願いをしようと思っていた。大学生の家賃補助の話について、あの文書を見て、紹介議員にも聞いたところ、家賃に固執しているわけではなく、今はアルバイト等諸々休止しているので何等かの支援をお願いしているような意図に見えた。執行部には市は学生向けに仕事を作り、大学生に必要なかどうかもあるが、必要であれば、緊急対策の雇用になるような支援をして欲しいという意見が会派から出た。支援本部の考え方の中に、家賃補助とか、漁業関係の方とかいろんな陳情・請願が出ている。そのことについては、委員会では表も裏もしっかりもんでもらう。それを本当に今出すことが良いのか、出して大丈夫なのかもしっかり考えて。そういうこともしっかり話し合いをしてほしい。それで、そのことをこの支援本部にも戻してもらって、それも総括して出すようにしてほしい。

川神議長

何でもかんでも厳しいから応援しようというのではなく、整理は必要である。大学生の請願については、最終的には家賃補助ではなく、負担軽減ということでのくくりになると思っている。コロナの期間限定の奨学の給付金みたいなことも一つの政策だろうし、先ほどの公営住宅法の一部の特例のようなことをするのも方策、また寮が今は1年生だけだが、それを拡大するには県がイニシアチブを取り、市はそれを応援する方式しかない。それをやると民業圧迫につながる感もあるので、バランス感覚が必要なのだろうと感じている。不公平感なしで頑張っている人に対し、どう応援できるか。国県の方策だけでは絶対に漏れが出る。ここで情報集約し、浜田として何ができるのか、我々が絞り出すべきだと思っている。そういう場にしたいと改めて思っている。

佐々木副議長

我々がやっている支援本部の動きと、本来発揮すべきだろう市の対策本部の関係がなかなかマッチングしてきてないのは事実だった。我々議員が伝えた市民の声を聞いているのはどうも教育部長のみのも雰囲気だった。それが公正公平の観点で反映できるかは執行部の視点の話である。これを提言すべきということをもっと詰めていけばより執行部に対しても力があるような提言になると思った。

学生や施設の方々への支援要望が多い。国も追加対応をしている。その上で市の大学生に何ができるかは我々が今後しっかり議論しなければならない。今回は大学だが、大学生個人で出されたものであり、他にも個人で困っている方はたくさんおられ、その整合性も必要で、ある意味大学はメンツをつぶされた形になっており、本来は大学を通じてということなので、そうは言っても通じなかったということかもしれないが、その辺もしっかり見ながら、対応についてはしっかりやっていくべきだと感じた。

川神議長

方向性とする、6月議会の一般質問の中にはコロナ対策の話がたくさん出るし、陳情・請願審査も行われるので、その辺りも含め、会派の皆

さんにお伝えいただきたいのは、コロナが全てではありませんが、今、時期的に市民の安全安心を守るのは重要なことですので、きちんと協議したい。最終的にその意見をここに持ち寄りたい。また議会が終了してから支援本部を開催したい。

三浦議員

国や県の施策が、これからいろんな形で出てくるだろう。一方で浜田市独自支援策も出すべきだという話をこちらから出している。家賃補助も、先に市から出した後で国が被る策を出したらどうなるのか。浜田の独自支援策が出ていて、国がカバーする施策は緩和されどどんどん出てくると思う。そうした時に国県の施策を見ながら浜田で足りていないところを要望していくタイミングはどう考えれば良いのか。

古森局長

今、執行部では市の独自支援策の次のものを出すつもりである。原課からは40項目くらいあげてきている。それを副市長のところでヒアリングして、単独なのか、12日に国の補正がでるが、それを受けての財源とするのか、そういった調整をする予定で動いている。国県に当てはまるものがあればそちらでやる、なければ単独でやるとか、もう少し整理したものが出てくると思っている。それがいつ発表なのかは今わからない。

三浦議員

今、出しているものとはかく、出したけど、国県が出してくる制度を見ながら、そこを整理していく。財源調整する。国県の制度で抜け落ちているところが見つかったら、市の事業で充てていこうということか。

古森局長

執行部が出した後か。

三浦議員

市の独自支援策を打ち出すべきだといっても、国県の様子を見ないと言えないと思う。

川神議長

今までもそうだが、自治体が独自施策をやろうとした時に国が後追いで行う場合がある。それはそれで良いが、財源が今までやったものは振替をしてとかいうことも起こるかもしれない。けれど、あまり先の方策ばかりを見て、独自の支援策を打つタイミングが遅れるのは本末転倒になる。だから今執行部が考えている施策、検討しているものはきちんと出してほしい。財源振替等は後で考えることにして。それはその時にしっかり整理すれば良い。

三浦議員

基本的にはタイムリーに国県が対応していない状況の中、できるだけ必要と思っている施策を浜田としては、どんどん。執行部に議会としても求めていくというスタンスで良い。そういうスタンスを求めていきながら、国県の後追いだったり、後から出してきたものについては、スケジュールにそって精査しながら、抜け落ちたものはそこからの議論ということか。

川神議長

それで良い。我々も執行権等はないので、そのことを言うこと自体が、効力があるのか、と言われたら具体的なそういったものはない。そこは信頼関係。そこは支援本部をとおして、議員の総意としてやること、それが支援本部会議の意義だと思っている。言ってもダメだろうとは根底に思っていない。それならこの会議をやる必要はない。

おおむね1時間経過したが、局長どうか。

### 3. その他

古森局長

行政視察については、全国市議会議長会から4月1日に当面自粛をお願いする文書がきた。その後5月27日、基本的に各都道府県の指針等踏まえ、視察先の議会の意向も十分配慮しつつ適切に対応するようである。この次のページの資料で、6月1日のところ、県をまたぐ移動については首都圏北海道を除いて良いというスタンスになっている。昨日の県知事のところ、6月15日以降の自粛解除の検討についてもそのとおりに動くこと知事は言われた。6月19日以降の全都道府県への自粛解除については、まだ方向性が示されていない。浜田市は島根県の方針に準じるとしている。解除が決定されればそれに合わせて行動することとしている。このまま順調に行けば6月19日以降に自由になる。浜田市議会についてはどうするかはご協議いただきたい。

川神議長

これは誰が権限を持って決めるのは厳しい決断になる。視察に関して意見があれば。懇親会についてはどうか。会派から意見をいただきたい。

岡本議員

2点目については、我々としてはどちらかという、各々が所属する会等で会合が進んでいるので、前向きに取り組みたい。各々の責任において会合を開く際には、こういう対策をとってからやろうと。飲食含めた地元の経済に前向きな姿勢を持つ。ただ、責任の所在についても、各々が責任を持つとしか言えない。

芦谷議員

事態が刻々と動く。ある程度新しい生活様式を頭に入れつつも、もう少し様子を見たい。ただ、議員の個人的な判断に任せたい。

柳楽議員

視察に関しては所管委員会では、やはり秋ぐらいまで様子を見た方が良いという話は以前出たので、とりあえず行うことも含めて検討はしたい。

懇親会については、皆いろいろなお付き合いもあると思う。それぞれの、自分自身の判断と責任で考えていく方向性で良いと思う。

三浦議員

視察については、社会のそうした1つの基準が出る中でやっていくのでそれに沿いながら良いのではないかと思う。感染を防ぐための最低限のマナーや予防の意識は大前提だとして、議会だけで何月何日までにどうするという基準を決めるのは難しいと思う。懇親会に関しても、それぞれの判断でやっていくことになるのでは。

澁谷議員

私は決めなくてはいけないと思っている。議会運営委員会で決めるべきところ、議運委員長はこの対策支援本部で決めるべきというわけのわからないことを言った。結果的にはできないとなるかもしれないが、決めることが大事。議長団が決めてもらっても良い。

懇親会についてはいろいろなグループに参加するのは個人の意思で構わない。委員会でやろうが会派でやろうが自由だと決めるならそれでいい。議会で決めたことに皆が従えばいい。

川神議長

県などの動向もある。視察はこちらから行くのと相手側が受けるのと両方の都合がある。常識的に言えば9月議会が終わって以降になるかもしれないが、いつから計画して動くかどうかは議長団にお任せいただきたい。ただ、1回決定しても第2波、第3波があれば変更はあり得る。

懇親会に関しては基本的にいろんなところで各々責任を持ってやってもらえばいいと思うが、議会の委員会としてやる時にはどうか。議会が決めるというのも微妙で、議長が一手に責任を負うのか。三密を避けて

感染防止対策をしっかりとやるのは良いのではないかと私は思う。ただ、何かあった時の責任の取り方が難しい。

澁谷議員

この会議、皆マスクをしている。これだけ厳密な対策を取っているのに、懇親会は食事もある。経済効果もある。どう判断したらいいのか。全議員の了解のもとにやればいい。議会主体の時はどう考えたらいいのか。

岡本議員

澁谷議員の言われることも理解できるのだが、委員会や会派等で話し合ってもらって、やるかどうか決めるしかないのでは。一人でも開催を反対するならやめる。要は単位ごとで決めればいい。

川神議長

会派なり委員会なりで開催する際、誰か議員外の者を呼ぶ時が問題であり、そこが気になるのではないかと推測する。

岡本議員

こういう時期なので、執行部が嫌がればそれはそれで良いではないか。

川神議長

執行部は誘われたら断りづらいだろう。誘わない方が親切かとも思う。

岡本議員

ではやらないと決めたら良いではないか。

川神議長

それプラスアルファについては何とも言えない。

岡本議員

付度があるというなら、やらないとはっきり言えば良い。

佐々木議員

この時期なので、会派や委員会だと全面に出して懇親会をするような時期にはきていない。やるなら個人の自発的な集まりにすれば良い。私は出ないと言う人がいるなら強制はしない。

岡本議員

県は有志でやっておられる。市民の目からそのように見えるなら、委員会の名前を出さない、執行部を呼ばないという形で。

川神議長

結論から言えばやるのだけど、執行部ととかではなく、共通した意思を持って会派とかでそれ以外の人間は呼ばないで意見交換したり、お店にお金を落とすことは良いと思う。

岡本議員

ルール決めの話をすると、委員会や会派の名前は出さないと。

芦谷議員

価値観もなにも違うのだからもう少し様子を見る。あとは委員会や会派の判断に任せる。実際に任せて判断すれば良い。

佐々木議員

個人の責任でやるからには、何かあった時にも個人の責任で良い。

岡本議員

市民の目がどうだと副議長が言われたから、それなら名前を伏せれば良いと言った。私は最初、各々の判断でやれば良いと言った。逆に議員が率先して自粛ムードを変えていく方が良いと思う。

佐々木議員

人によって受け取り方が違う。

川神議長

正面切って、こういうことは議会としてこれはよし、これは駄目とは言にくい。話を聞いていても、皆、個々の判断がベースになるとは持っている。最低限のマナーを守ることは当然ついて回る。

家賃補助をしていただいても、客がきてない。維持しているだけで生活できないという声もある。地元にお金がまわるお店でお金を使ってもらって元気を出してもらうのが議員の仕事ではないのかと。それが本音だと思う。経済対策で使っていく。その辺もバランスだと思う。しかしあまり振り切るのもよろしくないと思う。粛々としていただければ良い。会派に持ち帰るわけだが、各々の判断でやってくれという1点で良いか。出た意見はもちろん伝える。

岡本議員

川神議長

それで良いか。

( 「はい」という声あり )

三浦議員  
川神議長

視察や研修はどうなるか。  
それは議長団が持ち帰って決める。どうすれば上手くやれるか調整する。

柳楽議員  
三浦議員  
柳楽議員  
三浦議員  
川神議長

その研修とは委員会のことか。それとも個人か。  
政務活動費を使った個人の活動の話。  
政務活動費は各々の判断で良いと思う。  
それも個々の活動ということで良いか。  
今の状態なら、各々の判断で良いと思う。委員会視察等はこれから相談して決めさせていただきたい。  
他にあるか。

( 「なし」という声あり )

古森局長

事務局から。  
先ほどの話の中で6月定例会議が終わった後に次の会議ということで、一般質問や国市の取り組みを踏まえた上で、会議をするということでしたが、その時に、こういったものを提案するとか、こういった事業に取り組んでほしいというのは個々で考えてもらうのか。

澁谷議員  
川神議長  
古森局長  
岡本議員

国県の資料を提供してもらわないと。  
資料がそろった上で議論をすべき。  
国や県。  
強いて言えば、昨日か今日は安来市の施策が載っていた。近隣、島根県内でも良いが、コロナ対策の支援の事業が何らか出ていれば、予算の付け方もあると思う。国の予算の付け方があると思う。

芦谷議員

国県や他市の状況を執行部に調べろというのは違う。それは事務局職員に任せるか、我々が自分で調べるべき。

澁谷議員

執行部でなく事務局が用意すれば良い。事務局がいるんだから。国が予算を可決したら必ず新聞報道がある。それを整理して1枚紙にすれば良い。それだけのことだ。

岡本議員  
川神議長

市長部局に頼むつもりで話してない。  
国県の補助に隙間があるかどうかを、この支援本部で話したいと言っている。

澁谷議員  
柳楽議員

6月の国県と浜田市の一覧表があるだろう。  
40項目くらい市の検討項目があるとのこと。40となると結構な量がある。そこで検討を進められているものを、同じことを検討する必要はないのかなと思う。先般の議会運営委員会の時に、案として提出された。あれと同じように提出できるのか。

古森局長

ここで協議する中で、提供してもらえないかと投げかけてはいる。それがないと独自に考えるのが難しい。国県の追加項目と市の項目、それが出てからの次の提案になる。いつ提供できるかは断言できない。

澁谷議員

40項目から、実際に執行部が考えているのは10しかないということもある。

古森局長  
三浦議員  
古森局長  
三浦議員

原課が考えたのは40だが、それを市長がどう判断するかは分からない。  
査定を経たものが出ていたのか。  
はい。それ以降の話が追加分。  
査定で30になるかもしれない。取組をしている状況である。

岡本議員  
佐々木議員  
澁谷議員  
岡本議員  
川神議長  
岡本議員  
古森局長  
川神議長

緊急対策でいろいろ出てくる。財源がない。  
やるとしたら予算を付け替える。  
夏祭りが中止になったり。  
財布の中身はそれほど変わらない。  
取捨選択でしかない。  
52億とは、その中に入っているということか。  
市の予算には入ってくる。財源が国。  
他には良いか。次回開催は6月議会が終わったタイミングで日程調整するので、よろしく願います。  
以上で支援本部会議を終了する。